

温 故 知 新 (※1)中第 34 回卒 石 田 英 男 (※2)

母校は明治 31 年福島県第四尋常中学校として発足以来、永い伝統を受け継いで隆々発展の一途を歩み、ここに創立百周年を迎えることが出来ました。衷心よりお喜びを申し上げます。

私は昭和 11 年卒業。生徒数は 119 名。当時は受験競争が激しく 6 年生の時は、担任の先生の家で夜学に通って勉強した覚えがあります。5 年間列車通学でしたが宮城県からも大分学友がいた。服装は帽子に白線入り、靴、肩かけ布のカバン、ゲートルをまき、冬・雨天時はマント姿、それはきちんとした学生らしさがあり、プライドも高くカッコよかった。また、列車へ乗るボックスは女子は最後尾の 1 輛だけ。学校までの通学道路も女子は限られていた。

好きなタイプもいたが何せ話も出来ず、一緒に歩くことも出来なかつたきびしい扉があったが、勉強はよくしたものだ。家から駅まで、列車の中は勿論のこと学校まで歩きながら本を読んだり、寸時を惜しんで勉強したものだ。また、当時は女子校の運動会見学は禁止されていたが、友人と共に見に行きバレて、担任の先生にひどくしかられたことを今でも覚えている。

更なる思い出として、昭和 9 年中学 4 年生の 6 月夏服装で待ちに待った奈良、京都（3 泊 4 日）の修学旅行で生まれて始めて、しかも鈍行（往復）。引率の先生は千葉^(※3)、山本^(※4)、鈴木^(※5) 先生。参加者は 99 名。不参加者も何名かいたようだ。当時は東海道線も丹那トンネルも出来ていない時代で、国府津駅からゴトン、ゴトンとゆっくり御殿場まで、それから三島駅までの下りはスピードがあるものでした。何せ箱根の山々をぐるりとまわる鉄道でしたから。京都観光は例によって東本願寺から平安神宮、清水寺、金閣寺・・・・・・と 1 日かけての見学。三条大橋近くの旅館では街に出て買ったイチゴの舌づゝみ。夜は枕のぶつつけ合ういたずら遊びで大騒ぎ、先生に度々しかられ疲れてぐっすり寝込んだこと。奈良は猿沢の池から若草山、春日神社と東大寺の大仏殿の見学など。奈良・京都の歴史ある古都の風情は格別の思い出になったが、それ以来行った事はない。旅行マニアの私にとって珍しく不思議でならないと今でも思っている。3 泊 4 日といっても正味は 2 日。あとは殆ど列車の中で過した。強行軍の旅でしたが、いつまでも心に残った楽しい旅だった。

卒業してから 60 年。119 名の同期の桜、今、果たして何人生存しているのだろうか。知るすべもない。また、新地出身の同級生も 7 人いたが、すでに 4 人は他界。3 人だけが生き残り。同じ屋根の下で 5 年間学んだだけに、これも寿命だと諦めるしかないのか。亡き学友のご冥福をお祈りいたします。

“人間万事塞翁が馬”とよく言われているが、正にその通り。あと何年生きられるか。偕老同穴で自分らしく個性的にいきたいと思う今日この頃である。

最後になりましたが、母校の益々の御発展と会員の皆々様の御健勝をお祈り申し上げます。

(※1) 創立百周年記念誌 『相中相高百年史』 〈1998 (平成 10) 年 7 月 6 日発行〉 第四部「思い出の記」より。

(※2) 新地出身。昭和 11 (1936) 年卒。師範。

(※3) 千葉繁造。相中教諭兼舎監：大正 11 (1922) 年～昭和 11 (1936) 年。

(※4) 山本修之助。相中教諭：昭和 9 (1934) 年～昭和 18 (1943) 年。柔道/歴史。

(※5) 鈴木徳民。相中教諭：昭和 8 (1933) 年～昭和 12 (1937) 年。数学。

(転記&※脚注 村山)